

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	②-12	実施計画番号	15	事業開始年度	26
事務事業名	カラス対策事業			事業終了年度	28
担当課名	まちづくり支援課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	関連事務事業				
背景や経緯等	箱わなを設置し、カラス被害対策を講ずるとともに、有効策について引き続き検証していく。				
事務事業の目的	カラス被害から市民の安心安全な暮らしを守るための取組を進める。				
実施状況	H26年度にカラス捕獲用箱わなを1基設置した。 駆除羽数は、0羽(H26)、90羽(H27年見込)。				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	12	12	12
	人件費(千円)	432	432	432
正職員以外(選択)	従事者数(人)	2	2	2
	活動日数(日)	120	120	120
期間業務職員	人件費(千円)	1,416	1,416	1,416

【事業費の推移】

	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)	1,241	225	225

【指標】

活動指標	活動指標名①		カラス駆除数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			羽	0	90	200
	活動指標名②		カラス被害苦情件数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
	25年度8件		件	13	8	0
成果指標	成果指標名①		カラス被害苦情件数の前年度比			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			件	目標値 △ 8	△ 13	△ 8
				実績値 5	△ 5	
				達成度(%) -63%	38%	
	成果指標名②					
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			目標値			
			実績値			
			達成度(%)			

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">カラスによるフン害、ゴミ収集場所での生ごみの食べ散らかしなど、市民からの苦情・相談が寄せられている。カラスを駆除することで、市民の安全安心な生活が守られている。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	カラスによるフン害、ゴミ収集場所での生ごみの食べ散らかしなど、市民からの苦情・相談が寄せられている。カラスを駆除することで、市民の安全安心な生活が守られている。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
カラスによるフン害、ゴミ収集場所での生ごみの食べ散らかしなど、市民からの苦情・相談が寄せられている。カラスを駆除することで、市民の安全安心な生活が守られている。										
② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2							
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">2 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">・カラス駆除数は増加しているが、目標値に達していないことから、駆除数の増加に向けて検討の余地があると思われる。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	2 / 6	・カラス駆除数は増加しているが、目標値に達していないことから、駆除数の増加に向けて検討の余地があると思われる。	
	成果向上の余地	2 / 6								
	・カラス駆除数は増加しているが、目標値に達していないことから、駆除数の増加に向けて検討の余地があると思われる。									
④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1							
⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1							
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	C	1	5	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">1 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">箱わなを改良したことにより、箱わな付近への撒き餌をすることなくカラスを捕獲できるようになったことから、エサ代の削減が可能となった。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	1 / 6	箱わなを改良したことにより、箱わな付近への撒き餌をすることなくカラスを捕獲できるようになったことから、エサ代の削減が可能となった。	
	コスト削減の余地	1 / 6								
	箱わなを改良したことにより、箱わな付近への撒き餌をすることなくカラスを捕獲できるようになったことから、エサ代の削減が可能となった。									
⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">市民の住みよい環境づくりのため必要な取組である。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	市民の住みよい環境づくりのため必要な取組である。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
市民の住みよい環境づくりのため必要な取組である。										
⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
現在の適性					17 / 20	改善の余地	3 / 20			

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **17** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **3** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

有効性を改善して継続

方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

カラス駆除数の目標値を達成するよう、有効な駆除方法を検証しながら事業を継続して実施する。

今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

箱わなの更なる改良、エサのやり方などを検証しながらカラス捕獲数の増加に努め、カラス被害から市民の安全安心な暮らしを守る。